

## FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks

### Enterprise モデル(ラックサーバタイプ)

### ご使用上の留意事項 / ドキュメント修正事項

FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(ラックサーバタイプ) (以降 Cloud Ready Blocks Enterprise) に関して、以下の留意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいようお願いいたします。

また、Cloud Ready Blocks Enterprise のマニュアルの内容に修正事項がございますので、ここに謹んでお詫び申し上げますとともに、対象となるドキュメントをご覧になる際は、下記に示します内容をあわせてお読みくださいますようお願いいたします。

2017 年 7 月  
富士通株式会社

## ■ ご使用上の留意事項

### 1. ダウンロードサイトのご案内

各種ドライバや BIOS、ファームウェア、高信頼性ツールなどの修正モジュールを「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks」ページの(以下 URL)の「本商品をご使用中のお客様」-「ダウンロード」にて提供しております。

システム安定稼動のため、常に最新の修正モジュールを適用して運用されることをお勧めします。なお、最新モジュールのダウンロードおよび適用作業につきましては、お客様自身で実施いただきますようお願いいたします。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/integrated-systems/primeflex-cloud/>

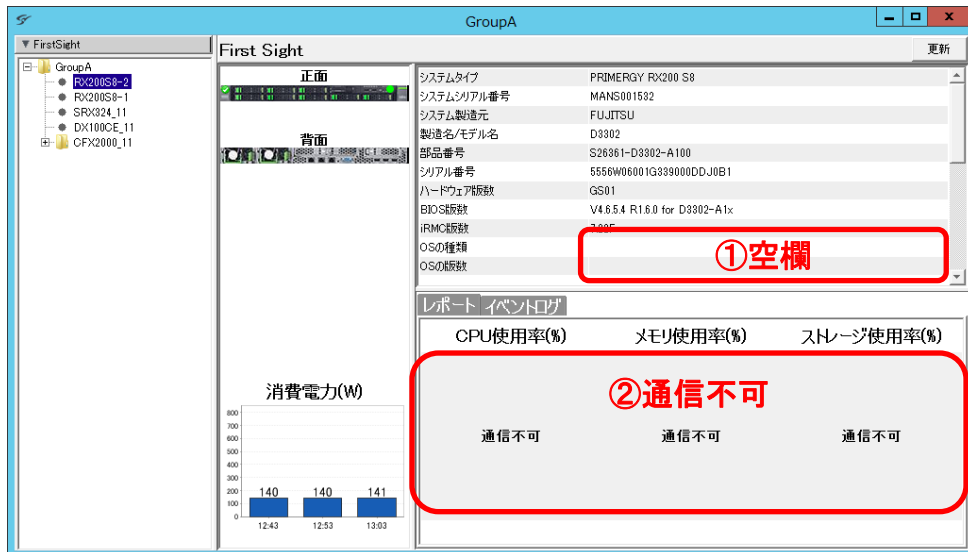
## 2. ServerView Infrastructure Manager に関する注意事項

FirstSight を起動した場合、サーバ(RX200 S8)の一部の情報が表示されない場合があります。  
「FirstSight で一部の情報が表示されない場合」を確認し、該当する場合は「対処方法」の実施をお願いいたします。

### ■ FirstSight で一部の情報が表示されない場合

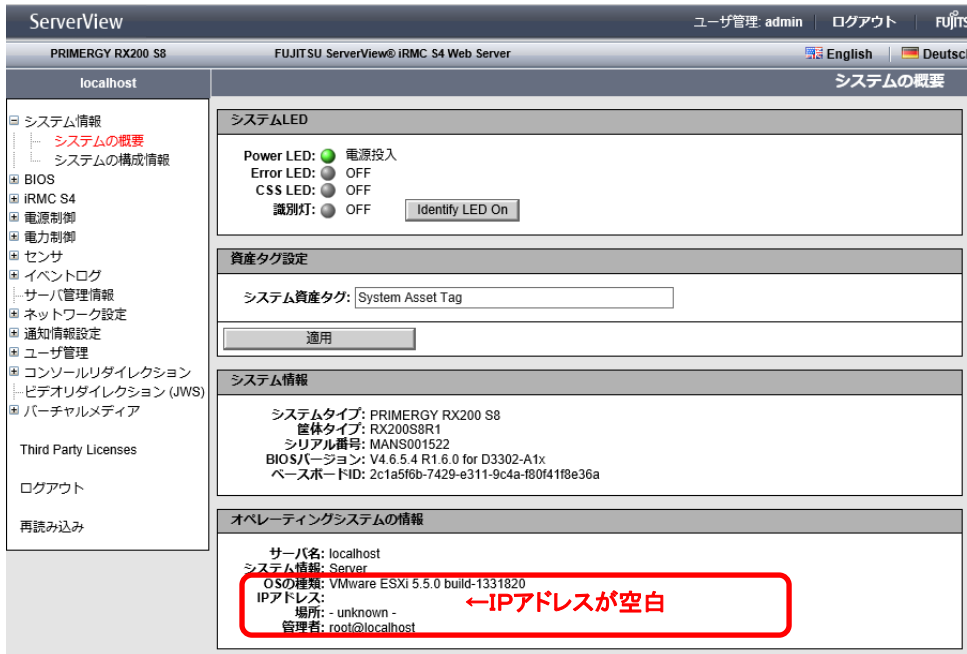
FirstSight を起動し、サーバ(RX200 S8)の情報を表示した場合、以下の情報が表示されません。

- (1) OS の種類、OS の版数の表示が「空欄」になります。
- (2) CPU、メモリ、ストレージ使用率の表示が「通信不可」になります。



## ■ 対処方法

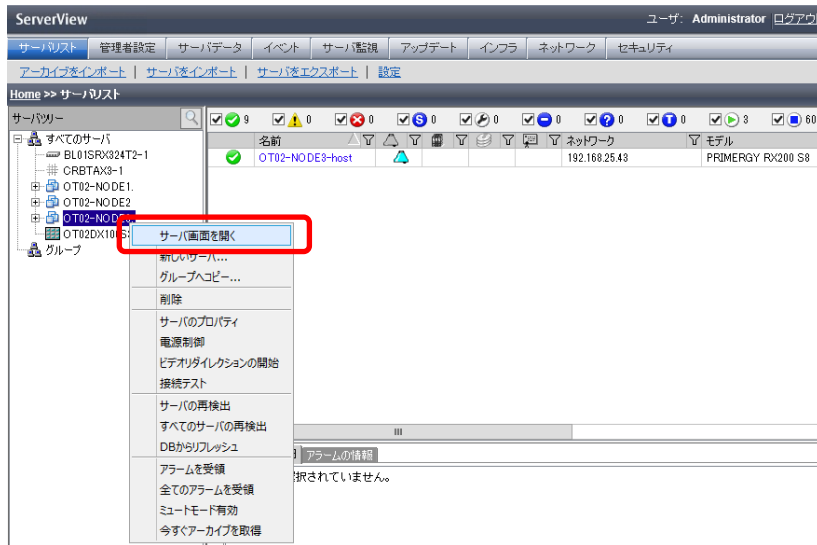
- (1) iRMC の Web-UI を起動し、ホスト OS の IP アドレス (ESXi の IP アドレス) が取得できているか確認します。  
取得できていない場合は本現象に該当するため、手順(2)に進みます。



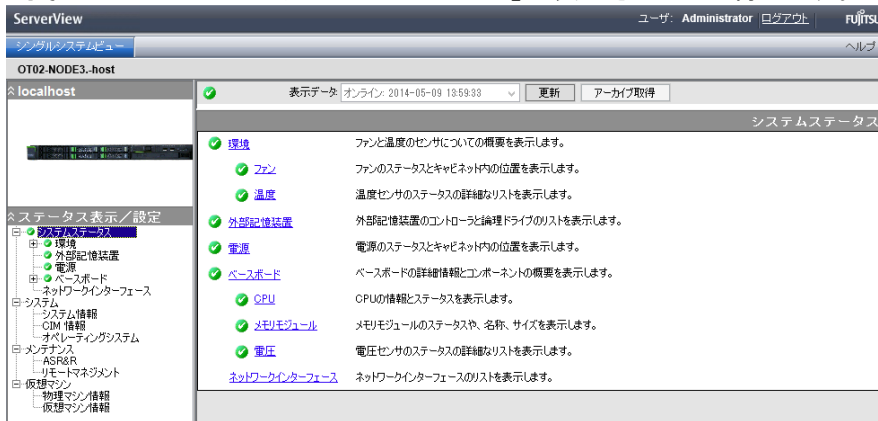
iRMC にログインする場合、出荷時の情報については以下を参照してください。  
 <環境設定情報の参照先>

項目	参照先
IP アドレス	[RX200S8_環境設定書]-[サーバの設定]-[BIOS 設定]-[Server Mgmt]-[iRMC LAN Parameters Configuration]-[IP Address]
ID	[ESXi ホスト_環境設定書]-[システム基本設定]-[iRMC 設定情報]-[ユーザ管理]-[管理者名]
パスワード	[ESXi ホスト_環境設定書]-[システム基本設定]-[iRMC 設定情報]-[ユーザ管理]-[管理者パスワード]

- (2) ServerView Operations Manager から対象 ESXi ホストを右クリックし、「サーバ画面を開く」を選択します。



- (3) 対象 RX200S8 の「シングルシステムビュー」が表示されるまで待ちます。



- (4) 手順 1 を実施し、iRMC でホスト OS の IP アドレスが取得できていることを確認します。  
(5) FirstSight を再度起動し、表示されていなかった情報が表示されることを確認します。

### 3. FCoE のネットワーク接続に対する操作を実施した場合の留意事項

集約スイッチ(コンバージドファブリックスイッチ)の FCoE-SAN 接続に関連するケーブルに対して抜き挿しやスイッチの再起動等の作業を実施し、ネットワークのステータスに変更が発生した場合、サーバノード(管理兼業務サーバ、業務専用サーバ)から冗長化されたストレージアダプタの一方から、共有ストレージ上の論理ボリュームが認識できなくなる場合があります。

部品交換作業等でケーブル、集約スイッチに対して作業を実施する場合、連続してケーブルを挿しこむ、または、ポートをオンラインにする際に、10 秒以上の間隔をあけて次の作業を実施してください。また、該当する作業を実施した場合、「ネットワークの状態確認方法」を実施して状態を確認し、該当する状態の場合は「ネットワークの復旧方法」の実施をお願いいたします。

#### ■ ネットワークの状態確認方法

vSphere Client を起動し、論理ボリュームが非活動状態となっていないか確認します。なお、対象となるアダプタは[vmhba1]と[vmhba3]のみが対象となります。

- (1) インフラ管理仮想マシンへリモートデスクトップにてログインします。
- (2) vSphere Client を起動し、仮想化管理仮想マシンへアクセスします。
- (3) vSphere Client のホーム画面から、[インベントリ]メニューの[ホストおよびクラスター]を選択します。
- (4) ホストサーバを選択し、[構成]タブより[ストレージ アダプタ]を選択します。
- (5) ストレージアダプタ画面より[vmhba1]を選択し、詳細設定画面より[パス]を選択します。
- (6) [ステータス]項目にて非活動となっている論理ボリュームが存在するか確認します。
- (7) 同様にストレージアダプタ画面より[vmhba3]を選択し、詳細設定画面より[パス]を選択します。
- (8) [ステータス]項目にて非活動となっている論理ボリュームが存在するか確認します。
- (9) 全てのホストサーバで(5) ~ (8)を繰り返します。

非活動の論理ボリュームが確認された場合、該当するホストサーバとアダプタの情報をメモします。

例: [vmhba3]で非活動な論理ボリュームが表示される場合

The screenshot shows the vSphere Client interface for configuring a storage adapter. The left sidebar shows navigation options like 'ハードウェア' and 'ソフトウェア'. The main area displays the configuration for 'vmhba3', including its model and WWN. Below this, a table titled '表示: デバイス | パス' shows the status of various LUNs. The table has columns for 'ランタイム名', 'ターゲット', 'LUN', and 'ステータス'. The 'vmhba3:0:0:T0:L0' through 'vmhba3:0:0:T0:L4' entries are marked as '非活動' (Inactive) and are circled in red in the original image.

ランタイム名	ターゲット	LUN	ステータス
vmhba3:0:0:T1:L7	50:03:2c:00:00:04:f9:00	50:00:00:00:00:00:00:00	有効 (I/O)
vmhba3:0:0:T1:L8	50:03:2c:00:00:04:f9:00	50:00:00:00:00:00:00:00	有効
vmhba3:0:0:T1:L9	50:03:2c:00:00:04:f9:00	50:00:00:00:00:00:00:00	有効 (I/O)
vmhba3:0:0:T0:L0		0	非活動
vmhba3:0:0:T0:L1		1	非活動
vmhba3:0:0:T0:L2		2	非活動
vmhba3:0:0:T0:L3		3	非活動
vmhba3:0:0:T0:L4		4	非活動

- (10) 非活動な論理ボリュームが確認された場合、継続して「ネットワークの復旧方法」を実施します。

## ■ネットワークの復旧方法

「ネットワークの状態確認方法」で特定した、非活動な論理ボリュームが存在するホストサーバのアダプタに対し、ケーブルを物理的に抜き挿しするか、対象のポートをオフライン・オンラインする作業を実施してください。

(1) ネットワークに対する切断・復旧作業を実施します。

- [vmhba1] に非活動となる論理ボリュームが存在する場合
  - 集約スイッチ#1 と共有ストレージを接続しているケーブルを抜き挿しする場合
    - ① 集約スイッチ#1 のインターフェースカード#2 のポート 11 およびポート 12 に接続されているケーブルを抜き挿します。  
ケーブルを挿す際は 10 秒以上の間隔をあけて次のケーブルを挿しこんでください。
  - 集約スイッチ#1 のポートに対してポートのオフライン・オンラインをする場合
    - ① コンバインドファブリックネットワークにログインします。
    - ② ポート 1/1/0/43 およびポート 1/1/0/44 をオフラインにします。
    - ③ 10 秒以上の間隔をあけて、ポート 1/1/0/43 およびポート 1/1/0/44 をオンラインにします。  
コンバインドファブリックネットワークからログアウトします。
- [vmhba3] に非活動となる論理ボリュームが存在する場合
  - 集約スイッチ#2 と共有ストレージを接続しているケーブルを抜き挿しする場合
    - ① 集約スイッチ#2 のインターフェースカード#2 のポート 11 およびポート 12 に接続されているケーブルを抜き挿します。  
ケーブルを挿す際は 10 秒以上の間隔をあけて次のケーブルを挿しこんでください。
  - 集約スイッチ#2 のポートに対してオフライン・オンラインをする場合
    - ① コンバインドファブリックネットワークにログインします。
    - ② ポート 1/2/0/43 およびポート 1/2/0/44 をオフラインにします。
    - ③ 10 秒以上の間隔をあけて、ポート 1/2/0/43 およびポート 1/2/0/44 をオンラインにします。  
コンバインドファブリックネットワークからログアウトします。

(2) 「ネットワークの状態確認方法」に従って、論理ボリュームが非活動状態となっていないことを確認してください。

## 4. ServerView Storage Manager に関する留意事項

本製品では、ServerView Storage Manager による ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 の監視に対応していません。このため、正常なステータスが表示されません。

「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(ラックサーバタイプ) 利用ガイド」-「3.2.2 ストレージ監視」の「(2) ServerView Storage Manager」については、参照しないでください。

ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 の監視については以下のソフトウェアについては、「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル(ラックサーバタイプ) 利用ガイド」-「3.2.2 ストレージ監視」をご参照ください。

## 5. ログ収集に関する留意事項

本製品では、「ETERNUS DX100 S3 / DX200 S3」は、以下のソフトウェアによるログ収集の対象外となります。

ログ収集を実行するソフトウェア

- 保守情報収集ツール  
障害発生時にログを一括収集するために使用します。
- ServerView Infrastructure Manager によるログ収集機能  
定期的にログを収集し、アーカイブするために使用します。

## 6. ETERNUS SF Storage Cruiser のアクセスパスの状態表示に関する留意事項

ETERNUS SF Storage Cruiser 16.1 以降を使用している場合、ETERNUS SF Storage Cruiser の Web コンソールでアクセスパスの状態が Warning で表示されます。  
また、この影響でスイッチのポート情報が正しく表示されません。

ETERNUS SF Storage Cruiser の版数により、対処方法が異なります。  
版数を確認の上、該当する対処を実施してください。

a)16.1、および 16.2 の場合

16.3 へアップデートし、「b)16.3 の場合」の対処を実施してください。

b)16.3 の場合

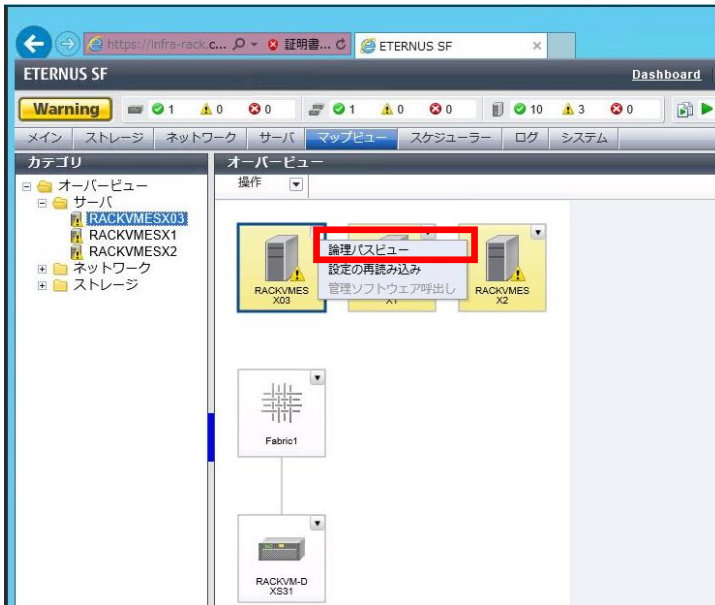
ETERNUS SF Storage Cruiser に修正[T012213XP-08]を適用してください。

修正適用後、結線のないポートに対してホストアフィニティ設定がされているパスが赤く表示されるようになります。

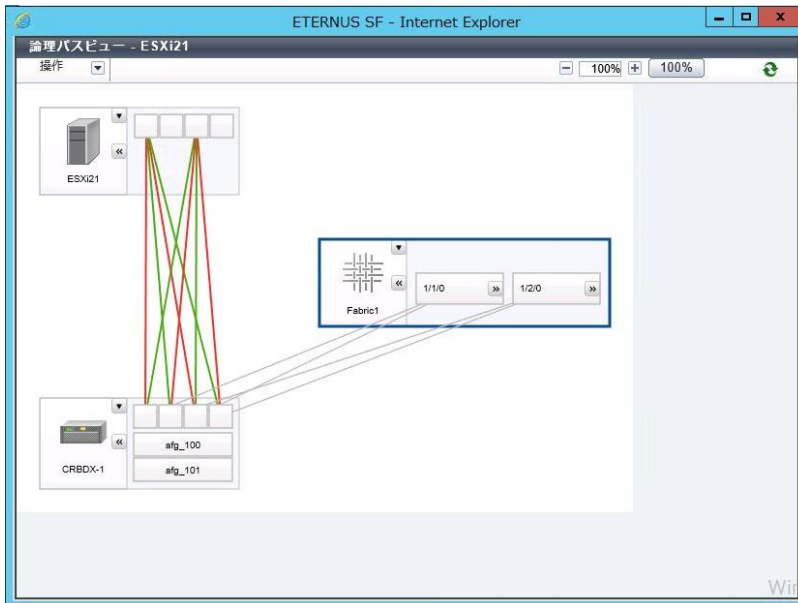
本製品の動作上、問題はございませんが、異常が発生していると誤認する恐れがございますので、[パス表示修正手順]を実施し、表示を修正してください。

### ■ パス表示修正手順

1. インフラ管理 VM に CRB 管理者アカウントでログインします。
2. ETERNUS SF Storage Cruiser Web コンソールで、修正適用後の状態を確認します。
  - (1) ETERNUS SF Storage Cruiser に IE を使用してログインします。
  - (2) [マップビュー]タブを選択します。
  - (3) 右側オーバービュー欄に表示されているサーバの右上▼をクリックし、[論理パスビュー]を選択します。



- (4) 表示された[論理パスビュー]画面で、赤く表示されている論理パスがあることを確認します。
- この赤いパスが、削除対象のパスとなります。赤く表示されているパスが存在しない場合(すべて緑)、サーバ、ならびにストレージ右上▼をクリックし、[設定の再読み込み]をクリックします。



### 3. ETERNUS の設定を変更します。

- (1) ETERNUS にアカウント(root)でログインします。  
ETERNUS が複数台存在している場合、それぞれについて実施します。
- (2) [接続性]タブをクリックし、左側カテゴリー欄-[接続性]を選択し、以下手順(3)~(7)をホストグループごとに実施します。
- (3) 接続設定欄の一番左側チェックボックスをチェックし、右側アクション欄の[ホストアフィニティ設定]をクリックします。



- (4) [ホストアフィニティ]画面で、ホスト-CA ポート接続の hsg\_xxxP0、または hsg\_xxxP1 右横の [編集]ボタンをクリックします。(本作業は hsg\_xxxP0,hsg\_xxxP1 の両方に対して実施)
- (5) CA ポート選択画面で、以下の表を参照して不要な CA ポートのチェックを外して、[OK]ボタンをクリックします。

hsg_xxxP0	
CA ポート	チェックの有無
CM#0 CA#1 Port#0	
CM#0 CA#1 Port#1	チェックを外す
CM#1 CA#1 Port#0	
CM#1 CA#1 Port#1	チェックを外す

hsg_xxxP1	
CA ポート	チェックの有無
CM#0 CA#1 Port#0	チェックを外す
CM#0 CA#1 Port#1	
CM#1 CA#1 Port#0	チェックを外す
CM#1 CA#1 Port#1	

- (6) CA ポート選択画面で、[設定]ボタンをクリックします。
  - (7) ホストアフィニティ設定結果画面で、[完了]ボタンをクリックします。
4. ETERNUS で実施した変更を ETERNSU SF Storage Cruiser に反映します。
    - (1) 手順 2 を参考に、[論理パスビュー]画面を開きます。
    - (2) サーバ、ストレージの右上▼をクリックし、[設定の再読み込み]を選択します。
  5. 赤く表示されているパスが存在しないことを確認します。

## ■ ドキュメント修正事項

1. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル（ラックサーバタイプ）利用ガイド」への訂正事項について

- 「A.3.1 コンバードファブリックスイッチ(CFX2000R)に関する留意・注意事項」を以下に読み替えてください。

コンバードファブリックスイッチに関する留意・注意事項については、「コンバードファブリックスイッチ製品 ご使用上の留意・注意事項」を参照してください。「コンバードファブリックスイッチ製品 ご使用上の留意・注意事項」は、以下の URL の「BX900/BX400 オプションマニュアル」の Web ページ内の「コネクションブレード」からダウンロードしてください(コンバードファブリックスイッチはファームウェア:V02.11 NY0033 以降で出荷されます)。

[http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/peri\\_blade.html](http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/peri_blade.html)

- 「A.3.2 PRIMERGY RX200 S8 に関する注意事項」を以下に読み替えてください。

PRIMERGY RX200 S8 に関する留意事項については、「PRIMERGY RX200 S8 ご使用上の留意・注意事項」を参照してください。「PRIMERGY RX200 S8 ご使用上の留意・注意事項」は、以下の URL からダウンロードしてください (PRIMERGY RX200 S8 は BIOS: 1.7.0、iRMC ファームウェア: 7.22F、オンボード LAN ファームウェア: 4.00 以降で出荷されます)。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/manual-rx200s8-201309.html>

■ 「A.3.3 ServerView Fabric Manager に関する留意事項」を以下に読み替えてください。

ServerView Fabric Manager に関する留意事項については、「ServerView Fabric Manager ご使用上の留意・注意事項」を参照してください。「ServerView Fabric Manager ご使用上の留意・注意事項」は、以下の URL の「BX900/BX400 オプションマニュアル」の Web ページ内の「コネクションブレード」からダウンロードしてください (ServerView Fabric Manager はバージョン 2.01 以降で出荷されます)。

[http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/peri\\_blade.html](http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/peri_blade.html)

■ 「A.3.8 SR-X324T2 に関する留意事項」を追加いたします。

SR-X324T2 に関する留意事項については、「重要なお知らせ」を参照してください。SR-X324T2 に関する「重要なお知らせ」は、以下の URL に公開される予定です (SR-X324T2 はファームウェア V01.05 以降で出荷されます)。

<http://fenics.fujitsu.com/products/support/security.html>

※2016 年 4 月現在は該当する情報は存在しません。

■ 「A.3.9 ソフトウェアを再インストールする場合の注意事項」を追加いたします。

出荷時にインストールされている、以下のソフトウェアについて再インストールが必要な場合は、本製品に添付されている「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise Model Documents and Tools DVD V2.0」からインストールを実施してください。本製品に添付されている ServerView Suite に含まれるバージョンとは異なります。

対象ソフトウェア	バージョン
Java Runtime Environment for Windows (32 bit)	Java 7 Update 45
ServerView RAID Manager	V5.8.5
ServerView Operations Manager	V6.31.03
ServerView Storage Manager	V5.0.0.9

■ 「6.4.3 コンバージドファブリックスイッチ」の「■ 部品交換後の作業」の手順 7 以降に以下の手順を追加してください。

8. MAC アドレスまたはシリアル番号が変更された場合、ServerView Infrastructure Manager を設定します。『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version 1.10 ユーザーマニュアル (ファシリティ管理機能編)』の [5.1 Facility Manager] を参照し、ラック搭載機器のプロパティ項目を変更します。

**重要**

- ServerView Infrastructure Manager の Facility Manager において、CFX2000R から情報を取得するためには、CFX2000R の MAC アドレスを正しく設定する必要があります。
- ServerView infrastructure Manager の Facility Manager において、CFX2000R のシリアル番号を表示可能です。CFX2000R 交換後のシリアル番号が変わった場合、機器プロパティでシリアル番号を再設定する必要があります。

■ 「6.4.4 ラックサーバに搭載された部品」の「■部品交換後の作業」を以下に読み替えてください。

1. ID ランプが点灯している場合は、ID ランプを消灯します。
2. 交換部品に応じて、作業を実施します。
3. サーバブレードのシステムボードを交換した場合、ServerView Infrastructure Manager サーバのプロファイル再適用が必要です。『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version 1.10 ユーザーマニュアル(プロファイル管理機能編)』の[4.9 サーバ保守後操作]を参照してサーバのプロファイル再適用を実施してください。
4. MAC アドレスが変更された場合、ServerView Infrastructure Manager を設定します。『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version 1.10 ユーザーマニュアル(ファシリティ管理機能編)』の[5.1 Facility Manager]を参照し、ラック搭載機器のプロパティ項目を変更します。
5. 交換を終了したサーバを起動します。  
起動方法は「■ 該当サーバの起動」を参照してください。
6. 「■ 該当サーバの vSphere HA への組込み」に従って、保守作業の終了したサーバを vSphere HA へ組み込みます。

■ コンバインドファブリックスイッチのファームウェア V02.40 NY0056 以降を使用している場合、「6.4.5 ラックサーバに搭載された CNA カード」の「■コンバインドファブリックスイッチの設定」の手順 3 以降を以下の手順に読み替えて実施してください。

3. 動作中構成定義情報 (FCF 情報) とゾーン情報を表示し、保守対象の CNA カードが該当する SAN モード系統、Zone 名を確認します。

```
#show running-config fcf          ## 動作中構成定義情報 (FCF情報) の表示
[Machine status:root/master Switch:1/1]
fcf a                               ## FCF-ID (SANモード系統)
    auto-vfc off
    active-zoneset SVFABA
    use on
    vfc 1
        bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
        exit
    vfc 2
        bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
        exit
    vfc 3
        exit
    ...
    zone zoneA1                      ## Zone名
```

```

        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
        ...
        exit
zone zoneA2                ## Zone名
        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
        ...
        exit
zoneset SVFABA
        member-zone zoneA1
        member-zone zoneA2
        ...
        exit
exit
fcf b                        ## FCF-ID (SANモード系統)
        auto-vfc off
        active-zoneset SVFABB
        use on
        vfc 1
                bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
                exit
        vfc 2
                bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
                exit
        vfc 3
                exit
        ...
zone zoneB1                ## Zone名
        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
        ...
        exit
zone zoneB2                ## Zone名
        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
        member-port XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
        ...
        exit
        ...
zoneset SVFABB
        member-zone zoneB1
        member-zone zoneB2
        ...
        exit
exit

#show fcf zoneinfo        ## ゾーン情報の表示
[FCF: a]                  ## FCF-ID(SANモード系統)

```

```

Active Zoneset
    SVFABA
        zoneA1          ## Zone名
                        XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
                        XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
                        ...
        zoneA2          ## Zone名
                        XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
                        XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
                        ...
...
[FCF: b]                ## FCF-ID(SANモード系統)
Active Zoneset
    SVFABB
        zoneB1          ## Zone名
                        XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
                        XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
                        ...
        zoneB2          ## Zone名
                        XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
                        XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX:XX
                        ...
...

```

- Global-Config モードへ移行します。

```

#Configure
(config)#

```

- 「表 6.16 CNA カードの交換とファブリックスイッチ」を参照し、交換した CNA カードの該当ゾーニングの FCF-Config モードへ移行します。

```

(config)#fcb <fcb-id>
(config-fcb)#

```

例: SANモード系統AにつながるCNAを交換した場合

```

(config)#fcb a

```

- 「表 6.16 CNA カードの交換とファブリックスイッチ」を参照し、交換した CNA カードに該当する FCF-Zone-Config モードへ移行します。

```

(config-fcb)#zone <zone-id>
(config-fcb-zone)#

```

例: SANモード系統AにつながるCNAを交換した場合

```

(config-fcb)#zone zoneA1

```

#### POINT

- 該当ゾーニングから交換前CNAカードのWWPNの削除(no member-port)と交換後CNAカードのWWPNの登録(member-port)を同時に行うことはできません。

- 交換前 CNA カードの WWPN を該当ゾーニングから削除します。

「表 6.14 CNA カードの WWPN(交換前、交換後)」を参照し、該当ゾーニングから交換前の CNA カードの WWPN を削除してください。

```
(config-fcf-zone)#no member-port <wwpn>
```

例: 交換前CNAカードのポート0-WWPNが00:00:00:00:00:00の場合

```
(config-fcf-zone)#no member-port 00:00:00:00:00:00
```

8. FCF-Config モードへ戻ります。

```
(config-fcf-zoneset)#exit
```

```
(config-fcf)#
```

9. 該当するすべてのゾーンに対して、手順 6～手順 8 を繰り返します。

例: SAN モードシステム A につながる CNA を交換した場合は、zoneA2 ~ zoneA6(最大)に対して、手順 6～手順 8 を繰り返します。

10. Global-Config モードに戻ります。

```
(config-fcf)#exit  
(config)#
```

11. 設定を保存します。

```
(config)#save
```

12. 設定を反映します。

```
(config)#commit
```

13. 「表 6.16 CNA カードの交換とファブリックスイッチ」を参照し、交換した CNA カードの該当ゾーニングの FCF-Config モードへ移行します。

```
(config)#fcf <fcf-id>  
(config-fcf)#  
  
例: SANモード系統AにつながるCNAを交換した場合  
(config)#fcf a
```

14. 「表 6.16 CNA カードの交換とファブリックスイッチ」を参照し、交換した CNA カードに該当する FCF-Zone-Config モードへ移行します。

```
(config-fcf)#zone <zone-id>  
(config-fcf-zone)#  
  
例: SANモード系統AにつながるCNAを交換した場合  
(config-fcf)#zone zoneA1
```

15. 交換後 CNA カードの WWPN を該当ゾーニングに追加します。

「表 6.14 CNA カードの WWPN(交換前、交換後)」を参照し、該当ゾーニングから交換後の CNA カードの WWPN を追加してください。

```
(config-fcf-zone)#member-port <wwpn>  
  
例: 交換後CNAカードのポート0-WWPNが00:00:00:00:00:00:00:00の場合  
(config-fcf-zone)#member-port 00:00:00:00:00:00:00:00
```

16. FCF-Config モードへ戻ります。

```
(config-fcf-zoneset)#exit  
(config-fcf)#
```

17. 該当するすべてのゾーンに対して、手順 14～手順 16 を繰り返します。

例: SAN モード系統 A につながる CNA を交換した場合は、zoneA2 ~ zoneA6(最大)に対して、手順 14～手順 16 を繰り返します。

18. Global-Config モードに戻ります。

```
(config-fcf)#exit  
(config)#
```

19. 設定を保存します。

```
(config)#save
```

20. 設定を反映します。

```
(config)#commit
```

21. 動作中構成定義情報 (FCF 情報) とゾーン情報を表示し、保守対象の CNA カードの WWPN が該当する SAN モード系統、Zone 名に登録されていることを確認します。

```
(config)#show running-config fcf ## 動作中構成定義情報 (FCF情報) の表示
...
(config)#show fcf zoneinfo          ## ゾーン情報の表示
...
```

#### POINT

- CFX2000のゾーン情報は、更新情報が反映されるのに数分かかります。

22. Privileged Exec モードに戻ります。

```
(config)#exit
#
```

23. コンバージドファブリックスイッチからログアウトします。

```
#quit
```

### ■ 「6.4.6 ハード管理スイッチ」の手順 3 以降に以下の手順を追加してください。

3. シリアル番号が変更された場合、ServerView Infrastructure Manager を設定します。  
『FUJITSU Software ServerView Suite ServerView Infrastructure Manager Version 1.10 ユーザーマニュアル(ファシリティ管理機能編)』の[5.1 Facility Manager]を参照し、ラック搭載機器のプロパティ項目を変更します。

#### 重要

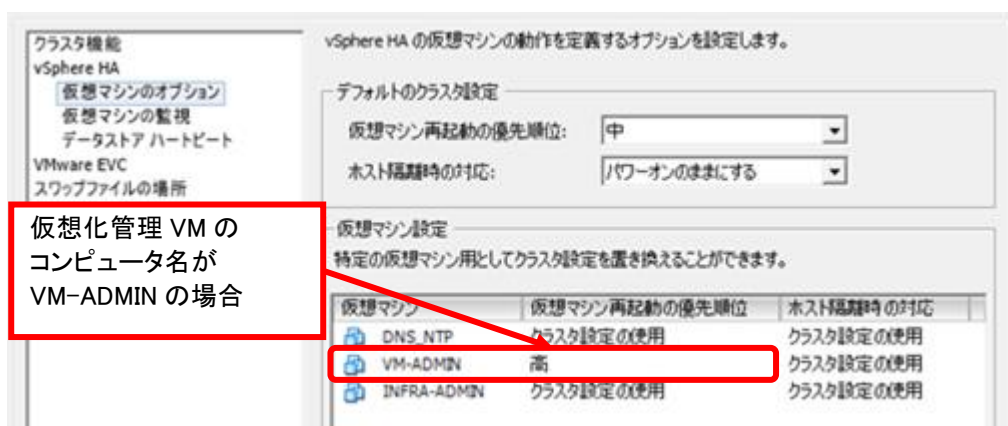
- ServerView infrastructure Manager の Facility Manager において、SR-X324T2 のシリアル番号を表示可能です。SR-X324T2 交換後のシリアル番号が変わった場合、機器プロパティでシリアル番号を再設定する必要があります。



## 2. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル（ラックサーバタイプ）バックアップ、リストアガイドサーバ増設ガイド」への訂正事項について

### ■ 「3.2. 仮想化管理 VM のリストア」の手順 28 以降に以下の手順を追加してください。

28. インフラ管理 VM へログインします。
29. vSphere Client を起動し、VMware vCenter Server（仮想化管理 VM）へログインします。
30. [表示]メニューより、[インベントリ]-[ホストおよびクラスタ]を選択し、[ホストおよびクラスタ]ビューを表示します。
31. ナビゲーションメニューより、[仮想化管理 VM コンピュータ名]-[Datacenter]-[Cluster]を選択し、右クリックで表示されるメニューから[設定の編集]を選択します。
32. 左のメニュー一覧より[vSphere HA]-[仮想マシンのオプション]を選択します。
33. [仮想マシン設定]から仮想化管理 VM のコンピュータ名を選択し、[仮想マシン再起動の優先順位]の設定を[クラスタ設定の使用]から[高]に変更します。



## 3. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks Enterprise モデル（ラックサーバタイプ）利用ガイド」への追記事項について

### ■ 「6.4.7 ストレージ」の「(2) コントローラーモジュール(CM)／チャンネルアダプター(CA)の交換」に記載されている以下を削除します。

#### POINT

- ETERNUSのコントローラーモジュール／チャンネルアダプターを交換してもMACアドレスは変更されないため、必要な設定は特にありません。

### ■ 「6.4.7 ストレージ」の「(2) コントローラーモジュール(CM)／チャンネルアダプター(CA)の交換」に以下を追記いたします。

#### ■ 部品交換後の確認作業

ETERNUS の CA 交換後、ETERNUS の CM の MAC アドレスが変わる場合があります。以下の手順にて、ETERNUS の CM の MAC アドレスとコンバージドファブリックスイッチ(CFX2000)に設定されている ETERNUS の CM の MAC アドレスを確認し、異なっている場合には、CFX2000 に設定されている ETERNUS の CM の MAC アドレスを再設定する必要があります。

1. ETERNUS にログインして CM の MAC アドレスを確認しておきます。
2. CFX2000 の動作中構成定義情報 (FCF 情報) を参照し、保守対象の CA カードが該当する MAC アドレスを確認します。

```
fcf a
  auto-vfc off
  active-zoneset SVFABA
  use on
  vfc 1
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:44
    exit
  vfc 2
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:62
    exit
  vfc 3
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:82
    exit
  vfc 4
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:48
    exit
  vfc 13
    exit
  ....
fcf b
  auto-vfc off
  active-zoneset SVFABB
  use on
  vfc 1
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:45
    exit
  vfc 2
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:63
    exit
  vfc 3
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:83
    exit
  vfc 4
    bind mac-address 8c:73:6e:be:e9:49
    exit
  vfc 13
    exit
.....
```

3. ETERNUS にログインして確認した MAC アドレスと、上記 2 で確認した MAC アドレスが異なっている場合、以下の手順にて MAC アドレスを変更します。例として vfc 3 で設定されている ETERNUS の CM の MAC アドレスが変更されている場合の手順を示します。変更は fcf a と fcf b の両方に対して実施します。

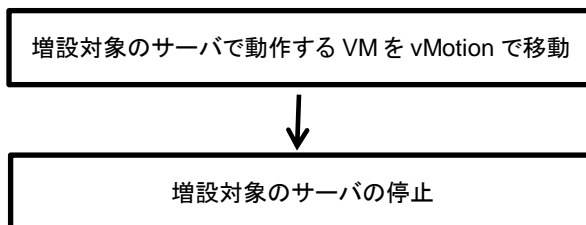
```
configure
fcf a
vfc 3
no bind mac-address
bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
exit
exit
save
commit

fcf b
vfc 3
no bind mac-address
bind mac-address XX:XX:XX:XX:XX:XX
exit
exit
save
commit
```

#### 4. 「FUJITSU Integrated System Cloud Ready Blocks フィールド増設ガイド」に関する補足事項

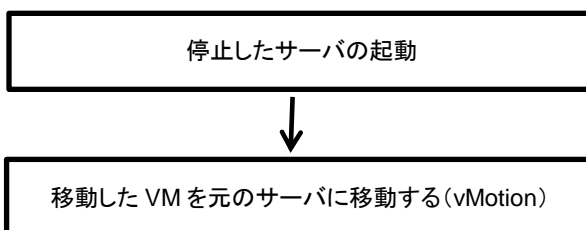
「1.2 サーバのシステムからの切り離し・サーバの停止」に以下の流れ図を追加します。

作業は以下の流れで行います。作業の詳細は『利用ガイド』を参照してください。



「1.4 サーバの起動・サーバのシステムへの組込み」に以下の流れ図を追加します。

作業は以下の流れで行います。作業の詳細は『利用ガイド』を参照してください。



以上